



2011年4月

# さくら

発行：偕行会透析医療事業部 さくら編集委員会

## 『東日本大震災に伴う透析医療事業部の対応と 皆様へのお願い』

医療法人偕行会 透析医療事業部副事業部長（瀬戸共立クリニック院長）  
山田 哲也

このたびの大地震で被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。また不幸にも亡くなられた方々に衷心より哀悼の意を表します。今回の地震は千年に一度という未曾有のものであり、報道等で徐々に被害の様子が明らかになるにつれ、その惨状に言葉もありません。二次災害といえる原発事故の推移も予断を許さず、まさに国家危急の時と言っても過言ではありません。

偕行会グループでは、「さいたまほのかクリニック」の建物の一部が損壊し、「豊島中央病院」では透析の機械が故障するという被害にみまわれましたが、患者さん・スタッフとも人的被害が無かったのは不幸中の幸いでした。

今回の大震災にあたり、偕行会グループはいち早く被災された透析患者さんへの支援体制をとりました。埼玉・東京の施設では既に多くの患者さんを受け入れ、被災地への医師・スタッフの派遣も行なっています。

また愛知でも公営住宅等を活用して行政が被災者の受け入れを開始していますので、その中で透析が必要な方については臨時透析を実施することにしております。それとは別に、当グループ内の入院・入所施設はもちろん、職員寮の空き部屋を開放するなど、最大限の受け入れ態勢を検討しているところです。

皆様にはお願いです。薬や医療材料などの一部が確保しづらくなっており、やむなく治療内容を一時的に変更しないといけない場合があります。被災地の患者さん受け入れにあたり、一時的なシフトの変更やベッド移動をお願いすることもあるかも知れませんが、その他皆様方にいろいろとご不便をおかけすることもあるかも知れませんが、今回の大震災は想像を絶する規模です。この国難を乗り越えるため私たち一人一人に何ができるかを考え、行動すべきではないでしょうか。

皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。